

『こども食堂通信』No.1

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会道央地区支部

子ども食堂の代表者会議を開催しました♪

【日 時】平成29年9月7日（木）18時30分～

【場 所】札幌市社会福祉総合センター

【参 加 者】(子ども食堂)「もくきち」、「ルチア学習塾」、「りんごの巣」、「かもくどう」、「ここなつ」

(社会福祉士会) 菅支部長、海老・目黒副支部長、柏事務局長、里村幹事

【開催趣旨】

3月6日に開催した意見交流会では、参加者が多く、子ども食堂の活動状況の把握に終わってしまったため、今回は子ども食堂の代表者にお集まりいただき、各々の子ども食堂の状況を踏まえ、本会道央地区支部として、

- ① 子どもを抱える親（世帯）の支援（相談機関等へのつなぎ役等）
 - ② 子ども食堂を運営していくための相談
(学校や地域団体等との連携、ボランティア保険や助成金の活用等)

をお伝えし、今後の子ども食堂との連携を考える場としたい。

【意見交換の内容】

- ・「もくきち」（厚別区）
月1回の開催に70名程の子どもや親、高齢者等が参加し、食事提供に追われている。
子ども食堂を始めたきっかけは、知人が食事に困っていたから。
必要な人が利用しているかわからず、問題のある子に目が行き届いていない感がある。
 - ・「ルチア学習塾」（南区）
NPO法人あいなびが母体。小学校長等から紹介され、学習支援・食事提供等を行っている。
「塾」と名付けてるので参加しやすいのではないか。
 - ・「りんごの巣」（豊平区）
月寒公民館で月1回、豊平区シニア教室の卒業生有志で活動。
提供する食事はダシから拘るなど食材に気を遣い季節感を大切にしている。
昔ながらの遊びを取り入れるなど日本の伝統を共有することも重視している。
 - ・「かもくどう」（中央区）
不動産会社が管理している物件のアパートで餓死した人がいたことから始める。
会社のスペースを開放し、無料でカップラーメンやお菓子等を提供。
山鼻小学校の生徒にとって放課後の居場所となっており、ほぼ毎回通ってくる子もいる。
 - ・「ここなつ」（江別市）
大麻商店街にあるラーメン店にて札幌学院大学の学生が中心となり活動。
 - ・道央地区支部から
ボランティア行事用保険及び赤い羽根共同募金助成の情報について説明。

【道央地区支部の今後の取組】

- ①今回、参加した子ども食堂を中心に訪問を随時実施
早速、9月21日18時過ぎに「かもくどう」を訪問したところ、子どもたちが帰った後でしたが、子どもたちが過ごしている空間の確認や様子を確認することができました。
中央区の商店街にある不動産会社のスペースを開放しています。
開催日以外の日時でも会社営業時間には利用可能としていることから、子ども達の「居場所」
頼れる場に思えました。

②子ども食堂にかかる通信を不定期に発行(EメールやFAX等にて発信)します。